

表3-1-9 「純粋無業者」の特徴

	「純粋無業者」	無業者全体	サンプル全体	
高卒以下	77%	61%	46%	*
親離死別	33%	21%	12%	
1カ月以上不登校	17%	9%	3%	
中退	30%	16%	6%	*
就労経験なし	40%	20%	2%	*
無業期間2年以上	50%	29%		
暮らし向きにゆとり	47%	50%	57%	

注) *印は非在学者サンプル全体。

第8節 まとめ

本章では、「自立調査」の独身無業者サンプル157名の経歴と現状について、主に無業者内部の3つのタイプと性別による違いに留意しつつ検討を加えてきた。タイプ別の相違はかなり明確であり、就労に対して積極的な「求職型」、それとは対照的に就労に対して消極的な「非希望型」、その中間に位置する「非求職型」、という特徴が観察された。経歴面でも、「非希望型」、特にその中の男性には、学歴面や就労経験、無業期間などに関して就労への意欲や可能性を阻害する諸条件が相当に集中していることが明らかになった。他方で、就労への積極性を保持している「求職型」でも、たとえば学力や学歴の問題や正社員経験の少なさ、年齢の高さ、あるいは暮らし向きなどの点では、困難を抱えていないわけではない。それは、就労への障害に関する彼ら自身の認識にも反映されている。

無業者の現在の活動内容を詳しく見ると、「特に何もしていない」者すなわち「純粋無業者」は一部にすぎず、それ以外の無業者は多様な活動に従事しており、まったく不活発な状態であるとはいえない。しかし、「純粋無業者」における不利な諸条件の集中、及びそれ以外の無業者が「純粋無業者」に転化する可能性という点では、それぞれに固有の課題が見出される。

こうした個々の無業者のリアルな実態を把握した上で、それぞれに適した支援策が講じられる必要がある。